

別紙

No.	質問	回答
1	Chromebookを使用している中学校が多いので、高校でもChromebookを使用してはどうですか。	ご意見ありがとうございます。今後の資料とさせていただきます。
2	大学入試に向け英検・GTECなど検定試験の受験は推奨していく予定ですか。	大学入学共通テストに替えて外部検定試験を利用する方針が延期されたため、本校としても情勢を見ているところです。しかし、一部の大学の個別試験で、資格が優位にはたらくことや、海外の大学へ進学する場合にスコアが必要となることもあるので、英語の定着度をはかる指標としての利用を含めて、外部検定試験の受験を推奨していく予定です。
3	他校でも論文作成や研究発表を行っている学校がありますが、大きく異なる点がありますか。	他校での取り組みをすべて把握しているわけではないので、比較を行うことはできません。本校としては、地域の自然や歴史、施設などを最大限に活かしながら、海外との交流活動や高大連携学習も交え、高度な探究活動を行っていく予定です。
4	探究活動の評価は、大学入試にどのように関わってきますか。	探究基礎・国際探究・理数探究・探究発表の各科目は、他の教科と同様に5段階評価を行います。そのため、評定平均値に組み込まれ、調査書にも掲載されます。具体的な研究内容については、別途、大学等から求められる成果報告書や志望理由書などに自ら記載していくこととなります。
5	過去の課題研究の内容を見られますか。	理数科の2年次課題研究で行ったものであれば、理数科のページに一部掲載しています。総合的な探究の時間に行ったものは、今後、掲載していきます。
6	探究活動の準備などが授業中に終わらなかった場合、放課後に実施するのでしょうか。また、部活動には影響がでますか。	探究活動と部活動の両立は可能です。ファイルを共有し同時に編集する機能を使うことで、グループ研究においても、それぞれの空いた時間に取り組むことが可能となり、集まらなくても共同作業することができると考えています。
7	論理的思考力や主体的態度を育てるための土台となる知識・技能はいつ身に付けるのですか？	探究の手法に関する知識・技能については、「探究基礎」の早い段階で取り扱い、探究基礎の授業のみならず、各教科の授業で実践していくことで、基礎知識・技能の修得を目指します。また、各教科における基礎知識・技能については、各教科での小さな探究活動を繰り返す中で修得していくことを目指しています。
8	他県でも「探究科」が増加していますが、関連性はありますか。	新学習指導要領の実施や社会の要請、本校のこれまでの教育活動の蓄積など、様々な要素を検討した結果、国際探究科と理数探究科を設置することとしました。
9	特色選抜の学力調査点と調査書点の比率が、特徴的だと感じますが、何か意図はありますか。	様々な要素を検討した結果、このような比率となりました。